

【相模原北公園】 (面積 10.5ha 平成3年開園)

敷地内の雑木林を利用しながら、公園全体に植物園のような雰囲気を持たせた総合公園。

アジサイ園:和・洋種あわせて200種・10,000株のアジサイが植えられている。日陰の傾斜地には、ヤマアジサイを、日の当たる広い道沿いには、華やかなセイウアジサイが。

梅園:紅梅、白梅入り交じる98種約100本の梅の花。

花木園:丹沢の山並みを望み、階段状に流れ落ちる水の流れの両側に、バラやラベンダーなど。

【相模川自然の村公園】 (面積4.72ha)

市民の総合的な憩いの場として自然環境を活かした、水とみどりのレクリエーションのシンボルゾーンとして整備が進められ、平成11年度全面開園。自然の斜面を生かして、約1万本の一才百日紅(さるすべり)が植栽されている。

古民家園:県指定重要文化財。江戸時代の茅葺屋根の建物で 昭和56年まで青柳寺の庫裏。平成10年に移設。

【小倉橋】 (神奈川の橋100選、かながわの景勝地50選)

昭和13年完成。ドイツ人の設計ともいわれる。長さ176m、幅4.5m。当時としては車がすれ違えるように設計されたが、近年の車の大型化で現在は交互通行となっている。老朽化が進み、現在の美しい4連のアーチ型の橋はいずれ取り壊される運命か。

新小倉橋:中央部がコンクリートアーチ橋[193m]、右岸側が4径間PC箱桁橋[115m]、そして左岸側がPCTラーメン橋[102m]で形成された、全長410mの橋梁。

川尻:「カシリ」シを段丘の意とするアイヌ地名説。相模川や谷津川の尻との説あり。その中心にある久保沢は商品の交換場所に最適で江戸時代「六斎市」(月六回開かれる定期位置)が開かれた。